

令和7年度第1回青森県立郷土館協議会について（会議概要）

令和7年度第1回青森県立郷土館協議会が開催されましたので、その内容をお知らせします。

1 日 時

令和7年7月14日（月） 13時30分～15時30分

2 場 所

青森県立郷土館 小ホール

3 案 件

- （1）令和6年度事業実施状況及び利用状況について
- （2）令和7年度事業実施計画について
- （3）博物館評価について

4 委員からの主な意見

- 自然分野の青森県の鉱山についての調査研究が今年度で計画3年目となるが、可能なら、廃坑等に棲みついているコウモリなどの特殊な生物についても、付属的に調査してほしい。県内のダムで見られるような希少種がいるかも知れない。松枯れの原因になるマツノマダラカミキリのような害虫を含め、コウモリの捕食による昆虫への圧力は、鳥類によるものと同様という論文もある。人工的に造られたものを住処にし、人と共生関係にある動物が、益獣と理解されずにいたずらに駆除されることから守る上でも、データをとっていただきたく思う。
- 館報で観覧料金の現在の規定を見て、すごく安くて良心的ではあるのだが、これで大丈夫なのかと逆に心配になった。
- パンフレットの見やすい文字や色合い、興味をそそる展示内容など、様々に工夫されているのを感じた。
- 休館中で博物館活動に制限がある中、小規模でも展示に工夫を凝らしたり、高校と連携してガチャガチャを実施するなど、資料に付加価値を付けた取組は、逆境をチャンスに変えたもので、教育機関としてのあり方としてすばらしい。
- サテライト展「缶詰王国」は、展示が美しく、テーマが身近で、幅広い年代が楽しめるものだった。こどもたちが行きたいと言っていた。郷土館の企画展の中では一番キャッチーだったのではないかな。今年度の「石」展も楽しみである。こどもたちにとって石はすごく身近で、グラウンドから一所懸命に有戸石を見つけてきたりする。そこに郷土館が目を向けることで、石って価値があるものなんだと思えたらいい。
- 缶詰展は青森工業高校文化祭での連携展を見に行きガチャガチャもやってきた。かわいらしくデザイン性が目に付く展示で、色が奇抜で視覚に訴え、文化的な情報が非常に入りやすく良い展示だった。石もおもしろい。河原の石は丸いとか、コレ

クションしたいとか、青森に愛着が持てる良い展示ではないかと期待している。

- むつ湾内が震源の地震で津波がくるとは思わないが、最近頻発している。館の収蔵品について、もしも津波がきた場合の対処法は考えているのか。
- ちゃんとした収蔵庫がないと入れられない国の重要文化財もあるし、津波などがくる前に早く移転したいところである。
- 昨年度定員割れした土曜セミナーに今年度は力を入れているとのことで、なるほど、今年度のチラシの題名は行きたいと思う、そそられるものになったなと思ったが、まだチラシはあっさりしていると思う。聞いてみたくなるように、内容をチラ見せする、本で言うと帯のような文があるといいと思う。
- 出前授業は対象が児童生徒であると明らかなが、一般対象の教育普及活動はターゲットの年代がわかりにくい。土曜セミナーは高齢の方が多いイメージだが、キャッチーなタイトルからして若い年代にも来てほしいのだろうし、第5回に予定している「コケの魅力」なら 30～40 代もけっこう興味を持っている。敷居が高くて入りにくく感じるので、チラシは、タイトルなどの文言を変えたのであれば、見た目も変えて、もっと魅力的に伝わるようにしてほしい。
- 昨年度の協議会で、学校としては出前事業のチラシをもっと早く配ってもらえるとう助かると言ったところ、今年度はとても早く来て良かった。ただ、単元とテーマは1年生から6年生までとなっているが、実績はほぼ小学校3年生での実施である。4年生の「郷土を開く」ならともかく、1、2年生の「昔の遊び」とか5年生の「米作り」で郷土館に頼むというのが、教員からするとちょっと思いつかない。6年生の教員目線なら縄文よりもむしろ戦争。青森空襲を知らないこどもたちも多い。郷土館の青森県の歴史の研究成果を活かして、そういうテーマをいくつかインパクトのある形で提示してもらえたら、出前授業を依頼する教員が増えると思う。
- 教育施設である博物館において見る、感じるという体験を、見える形で持ち帰ることができるのがミュージアムショップだと思う。国立博物館でも大盛況である。整備後の博物館では教育の一環としてのショップを重要視して考えていただきたいと思う。
- 総合博物館の役割について、今までは観覧者が一方的に見る受動的なものが多かったが、これからは見る人が積極的に主体的に考えることをコンセプトに持ってきたほうがいい。学芸員が講習会を開いたり、疑問を検索して簡単に調べられたり、勉強していてもよかったりするスタディールーム、ワークルームといった空間があるとありがたい。学ぶことは楽しいことだから、本県は県外の方を集客するのにねぶたや雪を活用するが、そういう時こそ郷土館にどうぞと言える場所、勉強と観光が両立できるようなところにしていただければうれしい。
- サテライト展などを現在は館外のいろいろな場所で開催しているが、整備後の館に来てもらうとなったら、集客が減るのではないか。マンパワーは限られるので、館外に出ていくことが少なくなると思う。来たらわかると安易にならないで、何かできるのではないか。

- 来たらこういう体験ができる、実際にモノに触れるといった、インターネットでは手に入らない魅力がその空間にない限り、そこに時間とお金をかけて行って学ぼうとはならない。足を運んでもらわないと教育もないので、観光と教育を分けて考えるのではなく、教育的などんな見せ方だったら博物館としての役割が果たせるのかをもっと考えていかなければならない。
- アクセスの面で、県南からバスで乗り付けるとかがバス代の高騰で難しくなっており、今みたいにいろいろな場所で開催するとか、タブレットで見ることができるようにするとか、駅からバスで行けるとかであれば足を運びやすい。特に中学生は学校行事などが多いので、土曜セミナーの忍者に興味があっても、日程が中体連と重なっていて残念だったりする。中学生がタブレットで学びを深めている中で、もっとできることがあるのではないかな。離れていても体験的なアクセスができるものが増えれば、中学生としての関わりも増えてくるのではないかな。
- より良い物を残すとか作り上げるにはお金がかかるが、それに対して価値を見出した人は対価を払ってくれる。せっかく良いものを作っているのだから、予算がネックなら、惜しいと思ってしまう。どうにか予算を計上できないか。また、中学生は大人扱いされ始めるすごく大事な時期で、そこで学びが得られないと、高校生になってどうぞ自分でやりなさいと言われても興味関心が持てる者は少ないだろうから、ぜひ県内の端から端まで中学生に広めていける機会があればいいと思う。